

## 2007年大阪市長選挙の結果をうけて

2007年11月19日

大阪市をよくする会

11月18日投票の大阪市長選挙で、大阪市をよくする会が擁立し、たたかいぬいてきた姫野浄候補は、11万3201票を獲得しましたが、善戦及ばず残念ながら当選には至りませんでした。

姫野候補を支持していただいた市民のみなさんに厚く御礼申し上げます。また、姫野市長実現のため昼夜を分かたずご奮闘いただいた大阪をよくする会の加盟団体、地域連絡会のみなさんに心からの敬意と感謝を申し上げます。また、さまざまな形でご支援いただいた各界各層のみなさんに重ねて御礼申し上げる次第です。

今回の市長選挙の結果は、これまでのオール与党による市民犠牲の「市政改革」に市民がノーの審判を下したことにあります。44年ぶりに現職市長が敗れるという結果は、参議院選挙に続いて、市民の声で市政を転換するという歴史的意義をもつものです。この流れをつくりだすうえで、ムダな大型開発と不公正乱脈な同和行政を大阪市政の二つの病として告発し、その是正ために全力をあげてきた大阪をよくする会とその先頭に立って奮闘していただいた姫野浄候補が果たしてきた役割は大きなものがありました。

選挙戦では、3回の全戸ビラを配布し、「税金のムダ遣いをやめて中学校給食の実現を」「地下鉄民営化はしません。無料の敬老優待パスを守りましょう」などの具体的な市民要求をはじめ、「同和行政を完全に終結する」との訴えを徹底して行ないました。こうした中で、「今度は勝ってほしい」「中学校給食をぜひ実現してほしい」「姫野さんしか今の大阪市を変えることができない」との声が広がりました。力不足により当選には至りませんでした。選挙戦を通じて多くの市民のみなさんから共感を得ることができました。世論調査で、市長選挙の最大の争点として「大型開発の見直し(38%)」「同和行政の終結(10%)」があげられるなど、私たちの主張が大きな世論となったことが明らかになりました。

平松候補が選挙戦の当初一切触れていなかった中学校給食の実施について、「中学校給食を検討し、食育をすすめます」とマニフェストに追記したことや、医療関係の団体の公開質問状に、「子どもの医療費」については「義務教育終了まで引上げを検討」、国保減免制度は「拡充すべき」と回答するなど、選挙戦を通じて他陣営にも影響を与えたことにもつながりました。

新市長にもとめられることは、大阪市民の審判に応え、選挙中にかかげた公約の誠実な実行であり、マニフェストにかかげた「情報公開」の徹底だと考えます。大阪をよくする会は、選挙期間中には明らかにしなかった落解放同盟との関係や連合・市労連との関係について注視しつつ、旧来の「オール与党政治」の延長とならないように、さらに市民のみなさんと連携を強化していきます。

貧困と格差が広がる中で市民の切実な声が今回、姫野候補に寄せられました。単独選挙となった1971年以降過去最高の投票率は、市民の市政刷新の願いの強さを示すものでもあり、当選した市長に対する監視の目が光っていることを指摘しなければなりません。私たちは、姫野さんが掲げた公約実現のために奮闘していきます。くらし、福祉優先の大阪市、市民による創造都市・大阪をめざし新たな決意を表明するものです。

以上